

開設講習名	【選択】ことばの仕組みを考える		講師	上田 由紀子	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開設日	平成 29 年 7 月 22 日		時間数	6 時間	受講予定人数 20 人
受講者募集期間	平成 29 年 4 月 7 日～平成 29 年 4 月 15 日		履修認定時期	平成 29 年 8 月 10 日まで	
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	中学校・高等学校英語教諭		
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			

**【到達目標】**

- 1) 英語や母語である日本語のデータから人間言語の普遍的なことばの仕組みを理解することができる。
- 2) 英語の自動詞、疑問文、再帰代名詞等を取り上げながら、既存の概念から離れ、新たな視点からの言語教育の可能性を探ることを試みることができる。
- 3) 言語を教える際の問題点や可能性を共有し、積極的に意見交換できる。

**【講習の概要】**

ヒトが生まれながらに持つ「ことばの仕組み」について、英語と日本語を例にあげながら、以下の4点について考える。1) 言語の普遍性と個別性、2) 文の構造、3) 英語の疑問文、4) 生徒に予測させる言語教育。ことばを教える立場にある者に一度は触れておいてもらいたい人間言語の本質的特性について取り上げ、人間言語に対する新たな視点を感じてもらうことを目的とする。受講者の議論への積極的参加を歓迎する。以下が具体的なトピックスである。

1) 「言語の普遍性と個別性」

英語と日本語のデータを使いながら、人間言語の普遍性と個別性について考える。

2) 「ことばの仕組み」

文の要素として、必須のもの(項)と任意のもの(付加詞)の識別を意識しながら、英語の基本的文構造を考える。自動詞構造についても考える。

3) 「疑問文を考える」:

英語の疑問文の派生と構造を考えながら、助動詞の do が出現してくる条件を検討する。

4) 「予測と発見の授業」:

英語の再帰代名詞と代名詞の出現可能な場所を観察し、規則を発見しながら、論理的に物事を考える思考を育てることについて検討する。

5) 実際の教室の現場で生じる教授上の問題や近年の小学校外国語活動の中学、高校英語教育への影響などについて、それぞれの学校での問題や取り組みを共有し、ディスカッションを行う。

**【評価の方法・評価基準】**

評価の方法: 口頭試験

評価基準: 合格: 授業の内容の基礎的な部分を理解し、説明できる。

不合格: それ以外

**【テキスト・参考文献】**

事前にテキスト(資料)を郵送にて配布予定。

**【受講者への伝達事項】**

特になし